

| |
|---------------------------|
| 【学校名】北海道北見工業高等学校 |
| 【活動の名称】 携帯電話安全教室 |
| 【活用した資源】北見警察署 |
| 【対象学年と活動の時期】 全学年 4月21日 |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |

(項目エー観点①居場所づくり)

【活動の概要】
・携帯電話やスマートフォンなどの正しい使用方法を学び、犯罪から身を守る。

【ねらい】
・メールや SNS の正しい使用方法を学び、ネットいじめの未然防止を図る。
・正しい情報発信の方法を学び、犯罪から身を守る。

【活動の流れ】
① 講師の先生からメールや SNS の正しい使用方法を学ぶ。
② 自分自身のプライバシーに配慮した情報発信の在り方を学ぶ。
③ 著作権に配慮した情報発信を学ぶ。
④ 歩きながら、自転車に乗りながらなど行う、携帯電話やスマートフォンの操作の危険性を学ぶ。
⑤ 危険なサイトから身を守るために、フィルタリングの必要性を学ぶ。
⑥ クラス内で話し合いを行い、さらに理解を深める。
⑦ 日常生活の中で、携帯電話を利用する際の心構えについて、クラス全体で共有する。
⑧ ネットパトロールを行い、不適切な書き込みがないか点検する。



携帯電話を保有している生徒はどのくらいいるだろうか。

○クラス内での話し合いについて

◎KJ法を活用しグループ討論を行い、これからの行動について考えさせた。
・「携帯電話を利用する上での心構え」について各グループで話し合ってみよう。

自分の身を守る

KJ法
↓

人を傷つけない

付随事故の防止

相談機関の確認

『自分だけは大丈夫』と過信せず、常に慎重な利用を！



SNS 等の利用で嫌な思いをしたことはないか。

○携帯電話安全教室に参加した生徒の感想

- ・あらためて、インターネット社会の怖さを知った。
- ・つい「ながらスマホ」をやってしまうので、やめようと思った。
- ・一度流出した写真は完全に回収することは不可能と知って、安易に写真を投稿するのはやめようと思った。
- ・自分のアカウントを見ている人はいないと思っていたが、悪意をもってアクセスする人がいることを知り、怖くなった。
- ・パスワードをかけているので、心配することはないと考えていたが、安心できないと思った。
- ・自分の撮影した画像を安易にアップロードすることの危険性が分かったし、撮影した画像の保存についても、責任をもたなければならないと思った。



携帯電話等を持つことによる『責任』について各クラスで話し合ってみよう。

【本活動における成果等（留意点含む）】
・休み時間に、携帯電話やスマートフォンの使用方法について、生徒同士で話し合う場面が見られるようになり、興味関心が高まった。
・校外外において、歩きながら、自転車に乗りながら携帯電話やスマートフォンを操作する生徒が減少した。
・校内ネットパトロールで不適切な書き込みの検出が減少傾向にある。

| |
|-----------------------------|
| 【学校名】北海道新得高等学校 |
| 【活動の名称】 高等支援学校との行事を通じた交流 |
| 【活用した資源】併存する高等支援学校の生徒及び教員 |
| 【対象学年と活動の時期】全学年 |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

(項目工一観点③環境づくり)

【活動の概要】

生徒会行事を中心とした各種行事を通し、併存する高等支援学校との交流を図る。

【ねらい】

- ・高等支援学校との交流を通し、お互いを知り、落ち着いた学校生活を送ることができるようにする。
- ・異校種である高等支援学校の生徒と、お互いを認め、尊重し合う態度を育てる。

【活動の流れ】

1 生徒会行事を通じた交流（生徒主体）

(1) 対面式（4月22日）

○目的：年度初めに特別支援学校生徒との交流により、親善を図る

- ・お互いに学校の概要を説明
- ・両校の代表生徒の挨拶
- ・校歌の紹介

(2) 体育祭（5月13日）

○目的：特別支援学校生徒への理解を深める

- ・大縄飛びと綱引きを実施
- ・大縄飛びでは、高等支援学校が準優勝
- ・綱引きでは、高等支援学校が3位



〈体育祭：本校1年生の大縄飛びの様子〉

(3) 学校祭（7月9日・10日）

○目的：両校生徒が協力して準備をすることを通じて、互いに尊重し合う態度を育てる

- ・一般公開では、お互いにステージ発表を披露
- ・高等支援学校のブースでは、実習で制作した木工品を販売

(4) 球技大会（12月20日）

○目的：特別支援学校生徒への理解を更に深め、互いに認め合う態度を育てる

- ・ミニバレーとバドミントンを実施予定

2 学校行事を通じた交流（教師主体）

(1) 避難訓練（7月15日）

○目的：校舎を共有していることを改めて認識するとともに、防災意識の向上を図る

- ・校舎を共有しているため、同時に実施
- ・両校の教員の連携も重要

(2) 全校遠足（10月14日）

○目的：両校生徒の一体感を高める

- ・台風10号の被害でコースや日程の変更があったが、共同開催で実施



〈対面式：高等支援学校の校歌披露の様子〉

～本校生徒の感想より～

- ・初対面で、支援学校の人たちも不安だったと思うが、校歌紹介の時、みんな上手だった。
- ・お互いに話せる機会があれば良いと思った。
- ・支援学校の皆さんの話を聴く姿勢が立派で、見習うべきだと思った。
- ・元気が良く、支援学校の生徒との壁をあまり感じなかった。



〈学校祭：高等支援学校のブース準備風景〉



〈全校遠足：出発直後の様子〉

【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・お互いに自然にあいさつなどができるようになり、規範意識の向上につながった。
- ・他者を思いやり、尊重する態度が見られるようになった。

| |
|-----------------------------|
| 【学校名】北海道釧路東高等学校 |
| 【活動の名称】 宿泊研修 |
| 【活用した資源】地域施設（阿寒湖畔のホテルと周辺施設） |
| 【対象学年と活動の時期】1年生 入学時 |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |

(項目ア—観点②絆づくり)

【活動の概要】

- ・阿寒湖畔のホテルで1年生の宿泊研修を実施する。
- ・研修中に高校生活のオリエンテーション、学級開き及びレクリエーションを行う。

【ねらい】

- ・入学直後に、通常の学校生活とは違う空間において、学年単独でオリエンテーション等の活動を行うことで、指導内容をより深く浸透させるとともに、学年内やクラス内の人間関係の構築を効果的に図る。
- ・阿寒湖畔の恵まれた自然環境の中で共に時間を共有し合うことにより、望ましい人間生活や高校生活に対する肯定的で前向きな姿勢を育成する。

【活動の流れ】

- ①宿泊研修検討委員会や学年が中心となり計画・準備を進める。〈教師〉
- ②教務部・進路指導部・生徒指導部・生徒会指導部より学校生活のオリエンテーションを行う。〈教師〉
- ③構成的グループエンカウンター（担当：ネイパル厚岸）を行う。〈地域の人々〉
- ④学級開き・レクリエーションに向けてのクラス討議を行う。
- ⑤学年レクリエーションを行う。
- ⑥アイヌコタン「イコロ」での芸術鑑賞に参加する。



②オリエンテーション



③グループエンカウンター



④学級開き・クラス討議

「グループエンカウンター」

講師の先生から、少しでも早く、良い人間関係を作るためのアドバイスとして「人の話を聞く時のポイント」について説明がありました。

Voice

- ・話したことがない人が多く不安だったが、活動を通してみんなと仲良くなれて嬉しかった。
- ・話すことで相手のことが理解できて友だちになりたいという気持ちが高まった。
- ・「人の話をよく聞く」ことの大切さがわかった。



⑤学年レクリエーション



⑥芸術鑑賞にて

芸術鑑賞 ～人形劇～
「ふんだりけったりクマ神さま」
アイヌ民族の世界観をユーモラスに描いた作品

「学年レクリエーション」

レクリエーションをとおして、前日のエンカウンターで学んだことを活用し、仲間意識を強めることをねらいとしました。

Voice

- ・みんなで力を合わせることの大切さを感じた
- ・クラスの団結力が高まった。

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・早い段階で自然にクラス内の人間関係が構築され、それぞれの生徒の居場所ができた。
- ・学級開きやクラス討議、学年レクリエーションを通じて生徒同士の絆をつくらせることができた。
- ・入学直後に、通常の学校生活とは違う空間において学年単独で研修することにより、指導内容をより深く浸透させるとともに、効果的に学年やクラス内の人間関係を構築させることができた。
- ・高校生活に前向きに取り組む姿勢が育成されることで、日々の学校生活が充実するとともに、周囲に対する否定的な言動の減少につながった。

| |
|--|
| 【学校名】北海道根室西高等学校 |
| 【活動の名称】 正装運動 |
| 【活用した資源】 生徒会活動（後期生徒総会・代議委員会〔各クラスHR長〕） |
| 【対象学年と活動の時期】 全学年 10月14日（金）～3月31日（金） |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

（項目イー観点②絆づくり）

【活動の概要】

- ・後期生徒総会において、代議委員長と副委員長が、全校生徒に対して生徒一人一人が主体的に身だしなみを整えてよりよい学校をつくっていかようと呼びかける演説を実施する。
- ・各クラスでHR長が「根室西高校正装運動宣言」を読み上げ、西高生としての自覚と責任の下、全校をあげて身だしなみを整える運動を展開していくことを宣言する。

【ねらい】

- ・生徒会活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに主体的に参画しようとする態度を育成するとともに、学校全体の連帯感を養う。
- ・自主的・自立的に規範を守る活動に参加することを通して自己指導能力を高めるとともに、安全・安心な教育環境を構築する。

【活動の流れ】

- ①生徒会執行部が「正装運動」の計画を立案する。
- ②生徒会執行部と代議委員会により正装運動宣言の内容を検討する。
- ③正装運動宣言の内容を決定する。（教職員も含む）
- ④後期生徒総会において、生徒会執行部が提案し、代議委員長が演説し「正装運動宣言」をする。
- ⑤事後活動として、全校集会や学年集会に参加する前の身だしなみチェックや、各HRにおいて日常的に身だしなみに気を遣う場面を設定する。



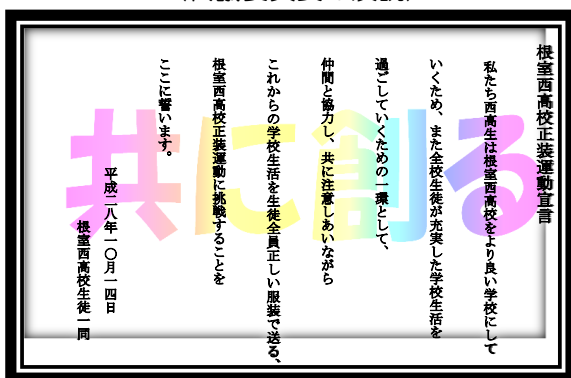
〈代議委員長の演説〉

《後期生徒総会演説の内容》

代議委員会から、「努力することの素晴らしさ」と「制服が果たす役割と大切さ」について全校生徒に思いが伝えられた。

《代議委員長のコメント》

「学校をより過ごしやすい場所に変えていきたいという思いがずっとあり、まずは身だしなみから始めたいと考えていました。これをきっかけに全校生徒で頑張ります！」



〈根室西高校正装運動宣言～各教室掲示～〉



〈各クラスHR長による宣言文読み上げ〉

《正装運動の感想》

- ・自分たちで身だしなみを整えようと思ったので、仲間と一緒に頑張りたいと思う。
- ・上級生として、後輩のお手本となれるように、周りに流されず、行動で示していきたいと思う。

【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・生徒が中心となって活動した結果、自分たちで行動を考えるようになり、自律心が芽生えた。
- ・仲間と一緒に取り組むことによって、他者を励ます声かけや協力して取り組む態度が養われた。
- ・身だしなみが整うことで、安心して学べる環境が整い始めた。